

# (一財) 熊本県青年会館 平成28年度 事業報告

新法人移行後の3年目となった本年度の一般財団法人熊本県青年会館は、年度当初の4月に発生した熊本地震により、今までにない経営危機に陥った。

被害は、各階の内外壁の崩落、給水設備の停止及び5階の給湯水の1階への漏水、電気器具の破損等々、会館運営の見通しが危惧される事態となり、利用受付を停止した。また、4月以降の宿泊や会議利用の予約は、全て解約された。

これを受けた対応として、地震直後から連日の施設復旧作業を行い、会館利用を再開させ収入確保を目指した。関係業者に応急修理をしていただき5月には一部利用を開始できた。また、当面の施設復旧で会館の自己資金が枯渇するため、県内や全国への緊急募金を開始した。

一方、日本財団からの熊本地震の災害復旧での助成金の実現し、トイレ改修やエレベータ改修が可能となった。日本財団への助成金申請は時間との闘いとなった。地震直後から、熊本県内で建設工事が一斉に取り組まれる状況にあり、建設単価も上昇し、引き受ける建設業者の選定も困難な情勢にあった。そのため、当初の会館建設に関係した設計業者を確保し、工事内容の確定とともに、地震発生後3ヵ月を経て工事設計図・見積書が完成。7月末に指名競争入札を実施して建設業者を決定、9月に着工、2月末に工事完成した。

5月の会館の利用再開以後、会館施設の復旧と共に、会館利用の予約が復活していった。熊本地震の復旧の工事関係者の利用が主体となった。

会館利用実績は、6月以降次第に回復し、会館収入は4,545万円で3,897万円から648万円増16.6%の増加となった。料理収入は前期の1,224万円から539万円と690万円減の43.6%となった。

当年は、昨年4階に続き3階の空調機を個別方式へと移行した。

青少年事業の助成金交付では、熊本地震の影響で、会館経営が危機に陥り、全国に緊急募金をお願いしていることや運営資金が枯渇していることもあり、本年に限り当初の予定を5割削減させて実施した。

尚、会館利用の青少年や青少年団体、地域団体の施設利用に低料金での貸し出し、6年目を迎えた毎週日曜朝の「おはよ一朝市」の開催、若者の婚活を提供する「でいあYELL」開催を支援した。

また、会館運営を維持するとして確保している役員借入金の残額については、年度末までに会館利用が回復したこともあり返済した。役員・評議員の報酬についても、支給できる経営状態にないことから、支給は見送った。

経営危機に陥った会館が、会館関係者や会館利用者のご協力により奇跡的に回復に至ったことを契機として、次年度に収益を一段と確保しつつ、健全な経営を実現させ、今後の持続可能な展望を確立していくことを祈りながら、次年度に引き継ぐこととする。

## Ⅱ 事業報告

平成28年度は、一般財団法人熊本県青年会館の新法人移行後3年目となったなかで、下記の基本項目に取り組んだ。

### ◎会館事業の基本項目

1. 会館施設の改修整備と収益確保
2. 公益事業及び各事業の充実
3. 会館運営の安定化

### 1. 会館施設の改修整備と収益確保

#### 会議室部門

会議収入では、2,502万円（H27は2,349万円）、2,456単位（H27は2,430万円）の利用で利用単位数が498単位、売り上げが153万円増加した。

熊本地震発生で、4－5月の利用が低迷したが、その後次第に利用が回復した。県内会議施設の阻害も多く有り、利用可能施設が少ないため、当会館の利用につながっている。

また、当会館として駐車場が無料で使用で杵典などもあり、一層の新規利用働きかけとともに、今後、固定的な継続利用を確実に進める必要がある。

被災した館内のトイレ改修、エレベータ改修が終了したことも有り、会館利用者への快適な施設を提供できることとなったため、一段と会館をPRしていくことが求められる。

#### 宿泊部門

宿泊収入では、1,562万円（＼1,069万円）、4,863人（＼3,624人）と利用は大幅増加し、前年より493万円増加した。熊本地震直後は、予約キャンセルが相次いだものの、次第に建設復旧の関係者などの利用が増加した。地震の後、各種イベント、スポーツ大会が中止されるなどが相次いだ。余震もなくなるにつれ、各種の開催は元通りに開催されるようになったことも、宿泊利用につながった。

会館施設のトイレ改修や3－4階の宿泊施設の空調機も更新したため、快適な施設利用となっているため、一段と小中学校、高校、大学への働きかけ、企業研修、スポーツ・文化団体等へのPRが求められる。

#### 料理部門

料理収入は、539万円（＼1,224万円）と前年より685万円減収した。

これは、宿泊者の食事や宴会利用、会議の昼食当の受付を主体としているため減収に至

っている。会議利用や宿泊者の受入のために料理部門は必要として運営してきたが、食事の外部委託も含めて、早期に対策を講ずる必要がある。

### ◎料理販売の企画実施

生ビールフェスティバル	7-8月の6日間の開催
クリスマスディナーの開催	12月1日-25日迄開催

## 契約部門

1階事務室には、日本ボート外熊本県連盟のみと契約している。

## 熊本地震の被害

4月24日の熊本地震の発生後、5階の給湯設備が破裂して1階までお湯が落水して館内は水浸しになってしまった。また屋上の高架水槽、受水槽の設備が破損して、水道水が利用不可となり、また、受水槽の水が濁ったため、会館の営業を停止することとなった。

会館の内外壁のひび割れ、各室の電気設備の落下、空調設備の停止、エレベータの停止等々被害は大きかった。

しかし、関係業者のご協力もあり少しずつ復旧に取り組み、宿泊施設の一部などでは、10日後には会館利用を再開することが可能となり、5月末迄には、全施設で営業を再開した。

## 施設改修工事

### 1. 日本財団の助成金事業

熊本県青年会館トイレ改修工事、熊本県青年会館エレベータ改修工事を実施した。

#### 収入額

日本財団 助成金	28,960,000
自己資金	508,880
合計額	29,468,880

#### 支出額

①熊本県青年会館トイレ改修工事	19,980,000
②熊本県青年会館エレベータ改修工事	5,940,000
③設計監理業者	3,548,880
合計額	29,468,880

### ①熊本県青年会館トイレ改修工事 指名競争入札結果

会社名	代表取締役	住所	
(株)村建	村上 崇	熊本市北区硯川町749	※落札 19,980,000
(有)田尻匠建設	田尻 正廣	熊本市北区飛田4丁目3-20	21,567,600
(株)タナカ建装	田中 美範	熊本市北区龍田8丁目15-43	20,422,800
(株)石崎組	石崎 弘幸	熊本市大江4丁目9-23	20,887,200
昇陽建設(株)	木村 良太	熊本市東区尾ノ上1丁目13-7	21,546,000

工事内容

各階トイレの和式を洋式化するとともに、トイレ室内の改装を行った。

②熊本県青年会館エレベータ工事

三菱電機ビルテクノサービス (株) 5, 940, 000

工事内容

会館オープン後33年を経た中で、設備の改修を行い耐久化させた。

③設計監理業者

(株) 弦設備設計事務所 3, 548, 880

トイレ改修工事の設計と監理を依頼した。

2. 会館施設内の電柱建て替え工事

会館建設後33年を経ている下部に亀裂があるため、耐震対策等で建て替えた。

(株) イチデン 864, 000

3. 館内給水設備改修工事 (漏水工事)

(株) 広誠設備 718, 200

※全体1, 026, 000のうち70%を資本計上30%を営繕費で計上。

4. 3階306カーペット貼り替え工事

(株) フジオ 274, 039

◎3階各会議室内の空調機の個別方式への切り替えの実施 ※リース方式にて実施した。

## 2. 公益事業及び各事業の充実

・青少年団体活動助成金交付

青少年活動支援事業としての助成金交付では、熊本地震の被害での復旧工事対策とともに、全国からの緊急募金をお願いしたこと、また、会館運営定期預金を取り崩して改修費に充当して会館運営資金が不足するため、当初、事業実施を一時、中止した。

しかし、平成29年2月、日本財団からの助成金が確保でき、また、全国からの緊急募金も290万円ほど受け入れ、当面の会館改修工事の終了した。

このため、会館事業実施委員会委員の了承を得て、当初に申請を受付けていた熊本県青年団協議会に対して、本年度当初予算の50%の助成金交付を行うこととした。

尚、次年度以降に、会館運営資金の確保を行いながら、縮減した事業額を追加させることが求められる。

熊本県青年団協議会 500, 000円

合 計 500, 000円

・日曜朝市の開催

日曜朝市は、本年度末で約6年を迎えた。日曜の朝8時から10時までの2時間程度の開催であり、会館の近隣の住民の皆様への新鮮な野菜・果物をお届けすることで、会館と住民のふれあい交流の場となっている。今後も出店者の募集を進めて、さらに

活気ある朝市としていくことが期待されている。

- ・ であYELLの開催支援

青年団OBが主体となり、会館を中心にして婚活の場の提供を展開してきた「であYELL」では、季節毎の開催が定着した。今後、さらにfacebookを活用しての様々な企画と会員拡大への取組が求められる。

- ・ 第45号青年会館だより発行

7 / 10 1,200部発行

本年も、Yung Wave として発行した。

本年は、一般財団法人熊本県青年会館の移行認可の3年目として、これまでの会館事業を紹介した。

### 3. 会館運営の安定化

本年度は、年度当初の4月14日、16日と2回にわたり震度6の熊本地震の発生したことで、施設の復旧工事を重点的に取り組んだ。

その結果、トイレ改修工事及びエレベータ改修工事が終了したことから、今後、会館の内外壁のひび割れ防止の改修が求められる。このためには、資金的な見通しが必要であり、現在の当法人として財務状況では、工事着手は困難な情勢にある。

会館収入では、会議室利用及び宿泊収入の増加となっているため、早期に料理部門の赤字体質を克服させ、財政的にも安定できる会館となることが待たれる。

今後、役員及び評議員を主体として、会館の様々な可能性を探り、外部関係者を含めた会館運営計画の策定を進めることが不可欠となっている。